

MATSUNAGA HEADLINE NEWS

2018 September | Vol. 35



感動創造建設会社

MATSUNAGA

発行元：株式会社 松永建設 発行人：松永大祐
〒339-0043 埼玉県さいたま市岩槻区城南五丁目6番6号
TEL: 048-798-1751(代) FAX: 048-798-0075
URL: <http://www.matsunaga.gr.jp> ☎0120-980-633

大切な皆様に松永建設の「今」をお伝えするコミュニケーションペーパー

創意工夫と社会的貢献活動などが 認められ、局長表彰を受賞！



国土交通省 関東地方整備局 局長表彰& 安全管理優良受注者表彰のダブル受賞

「H29大越樋ノ口堤防強化(下)工事」



平成29年度に関東地方整備局管轄下で行われた1180件の工事の中から、松永建設が手掛けた「H29大越樋ノ口堤防強化(下)工事」が、最高位の局長表彰を受賞しました。同工事は安全管理優良受注者表彰のダブル受賞となり、情報化施工、現場の週休二日制、工事見学会の実施など、さまざまな取り組みが評価されました。

受賞に向けたプロジェクトを立ち上げ

関東地方整備局では、同局が発注した、河川、道路、営繕、港湾、空港の工事及び業務の中から、毎年優秀な工事・業務に対して表彰を行っています。平成29年度、対象となった工事は1180件。その中から47件が、最高位である局長表彰を受賞し、松永建設も8年ぶりの受賞となりました。

受賞したのは、利根川上流河川事務所から発注いただいた「H29大越樋ノ口堤防強化(下)工事」。同工事では、安全管理優良受注者表彰を受賞。局長表彰と併せてダブル受賞となりました。監理技術者は、田中吉朗課長。

松永建設では土木工事に対して常にベストを

尽くし、局長表彰に向けて努力していますが、今回は特に受賞に向けたプロジェクトを立ち上げ、発注者様及び周辺住民の方々の目線から工事工程を見直すなど、さまざまな取り組みを行いました。

「H29大越樋ノ口堤防強化(下)工事」完成写真



創意工夫と社会貢献などが評価される

取り組みの1つが、築堤(路体)盛土に活用したICT(i-Construction)。従来の盛土施工では、現場職員が盛土の高さ・位置出しなど測量を行いながら正確な位置を決めていきますが、バックホウやブルドーザーに3次元設計データをインプットする情報化施工を実施。現場作業の省力化と工事の生産性向上を実現しました。

「この賞をいただくことを目指して日々現場に臨んでいるので、素直に嬉しいです。評価をいただいたポイントとしては、創意工夫と社会貢献が大きかったのではないかと考えています。ICTの活用も創意工夫の1つですが、女性目線で安全管理を行う『松女パトロール』も私たちの新しい試みでした。社会貢献活動では、地元の小学生や保育園児を招いて実施した現場見学会などが評価されたのではないかと考えています」(田中課長)

現場作業に週休二日を採り入れる

保育園児を招いて松永建設が開催した見学会では、ミニバックホウによる玉入れ大会などを実施。埼玉県ゆるキャラ「コバトン」もイベントに参加して、園児たちは大喜びでした。

また同工事では「働き方改革」を視野に入れ、現場作業の土日休み(週休二日制)を導入したことも評価につながっています。

「もともと工期が限られている中で、週休二日はかなり大変なことでした。仮設出入口を設置し

て搬出入をスムーズにするなど、できる限りの工夫をしました」(大居係長)

「土日、騒音や振動などで周辺の方々に迷惑をかけなかったことは、よかった点だと思います。現場をどのように効率よく進めていくのか学ぶことの多い工事でした」(久保社員)

「松山室長や三浦部長に品質証明を担当していただくなど、会社全体のサポートがあったからこそ受賞できたのだと思います」(田中課長)



土木部 田中吉朗課長



土木部 大居武彦係長



土木部 久保 翼社員

受賞後、松永建設でも早速祝賀会を開催。現場の負担低減、働き方、生産性の向上など、土木工事の「今後」について熱い意見が交わされました。

安全管理優良受注者表彰

無事故&安全を追求して、5年連続受賞を達成!

松永建設は国土交通省関東地方整備局より、平成29年度「安全管理優良受注者表彰」をいただきました。この表彰は、関東地方整備局発注の一般土木工事等において、3年間以上無事故を続けるなど、安全管理に優れた事業者に授与される

もので、松永建設は5年連続の受賞となります。安全管理は土木事業の基本中の基本であり、松永建設でも特に力を注いでいる重要事項です。今後ともより一層の安全管理体制を築いていきます!



建築土木の現場を、女性の視点で改善

建築・土木の現場に女性ならではの視点を取り入れて、安全管理、作業環境の改善を推進するために生まれたのが「松女パトロール」。女性社員がチームを組み、松永建設が手掛けるすべての現場を定期的に訪れて、女性ならではの視点から、安全パトロールを行っています。

例えば、誘導路は子どもを乗せた自転車でも通れるよう広めに設け段差を最小限にし、転落防止することや、休憩所内の分煙化を徹底することなど、

彼女たちの提案は直ちにフィードバックされ、現場の改善に役立てられています。



松女パトロール

- ・周辺に暮らしている人の気持ちになって、現場を見るようにしています。
- ・「私も現場で働ける」そんな環境創りを目指しています。
- ・これまで現場に行く機会がなかったので、とても新鮮に感じます。

株式会社グローバル・エルシード様

●ホテルウイング インターナショナル セレクト 上野・御徒町(平成30年4月竣工)

お客様
インタビュー

品質の高いホテルを、厳しい工期の中、建築していただきました。

株式会社グローバル・エルシード
取締役 開発事業部 部長

岡田 圭司様

コストコントロールに優れた
ゼネコンを探す

当社は首都圏及び関西エリアにおいて、分譲マンションや商業施設、ホテルなどの企画・開発を行っています。都内でのホテル開発は今回の上野・御徒町のプロジェクトがその第1号となります。

首都圏の土地が高騰している中で、このプロジェクトを成功に導くには、建築費がどれくらいかかるのかという点が重要なカギとなります。しかし一方、ホテルという施設には「また、あそこに泊まりたい」というお客様の気持ちをかきたてる快適性やデザイン性が求められます。安かろう悪かろうという訳にはいかず、また、スペックを上げようと思えば際限がありません。

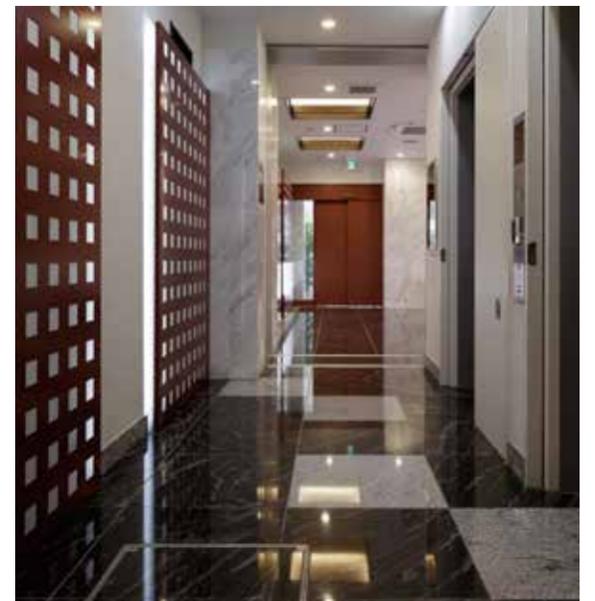
そこで、限られた建築費の中でどこまでスペックを高めることができるのか。施工技術はもちろんですが、コストコントロールに優れたゼネコンさんを探す必要がありました。その時、土地をお世話していただいた業者さんから松永建設さんを紹介していただきました。

実をいいますと、このプロジェクトは施工業者を複数社の中から決めたのではなく、施工を松永さんに発注する前提で進めました。初めてのお取引でしたので、社内的にもこの形式は非常にレアなケースです。紹介してくださったのが信頼できる人だったこと、実際に松永さんとお会いしてコミュニケーションがスムーズに進んだこと、お願いしたことに対して「ノー」ではなく「考えてみます」と受けていただけたことなどが、松永さん1本で行ってみようと思った理由です。その分かなり無理をお願いしたとも思っています。例えば工期ですが、15階建てRC構造のホテルを、着工から竣工まで非常に厳しいスケジュールの中、予定通りに仕上げていただきました。

金融商品として認められるほどの
確かな品質

当社はディベロッパーですが、建物を自由に計画しているわけではありません。ホテルオペレーター様の意見を最大限取り入れ、その希望に沿った設計・施工を行うことが強く求められます。さらに建物をお引渡しする際にも、当然、品質に対する確認作業が入ります。

特に上野・御徒町のホテルは、上場REITに



和の雰囲気を感じるシックモダンなエレベーターホール

売却いたしました。そのため専門機関による厳しいチェックが入りましたが、コンプライアンス、設計、デザイン、PML評価(地震リスク評価)などすべてをクリアすることができました。不動産が金融商品として認められた。このことは当社としても、松永さんとしても、誇れることだと思っています。

上野・御徒町のホテル建設を通して信頼関係を築いてきましたので、浅草のホテルや、現在建設中の西蒲田のホテルも松永さんに設計・施工をお願いしました。新たなゼネコンさんに頼んで1から関係性をまた築き上げていくより、理解している者同士の方が仕事を進めやすいと考えたからです。

当社が企画・開発するホテルは、その都度、立地もオペレーターも、コンセプトもデザインも異なるので、ご苦労いただいているのではないかと思います。当社としては、今後も首都圏でホテル開発を進めていきたい意向ですので、松永さんとタッグを組む機会も増えるのではないのでしょうか。

株式会社エクシング様

●エクシング千葉倉庫棟新築工事 第二期工事(平成30年5月竣工)

お客様
インタビュー

工事をするたびに、松永さんが進化していることを感じます。

現場が使いやすい満足度の高い倉庫

当社は危険物輸送に特化した会社として58年の歴史があり、以前は倉庫と輸送の2つの会社に分かれていました。2008年、荷主さんが増えたため埼玉県内の倉庫を拡大しなければいけなくなったのですが、地主さんが複雑に入り込んでいたためどうにも話が進みませんでした。これは地元の特化した企業に事情を聞かなければいけないなと思っていた時、たまたま相談したのが松永建設さんでした。その後いろいろお願いしたりもしたのですが、倉庫の施工を発注するところまではいきませんでした。ただ、よくしていただいたという思いは、当時の担当者も、私もずっと抱いていました。

そのお礼というわけではありませんが、2013年、隣接の工場跡地を買い取り危険物倉庫に転用する話が持ち上がった際、メンテナンスのことも考えたら地元のゼネコンさんをお願いするのがいいだろう。埼玉県なら松永さんだねという話に自然になったのだと思います。

危険物倉庫の使い方として、従来は荷主さんにお届けするまでの仮置き場的な役割がメインでした。しかし現在では、荷主さんから危険物をお預かりする拠点であり、デリバリーやそれに付随するさまざまな物流サービスを展開するなど、役割が大きく変わってきています。消防法等もクリア

する必要があり、だれにでも施工を頼めるという施設ではありません。

危険物倉庫とは何かということから始まって、扱いやすい倉庫レイアウトなど、相当、試行錯誤して建てていただきました。その後、平成29年に千葉倉庫の第一期工事をお願いしたのですが、明らかに進化しているのです。改善されている。「ここをこうしたらどうですか?」という提案もどんどん出していただきました。提案に対して、こちらも考えて進歩する。こうした積み重ねのおかげで、今回の千葉の第二期工事では、現場が使いやすい、非常にいい倉庫が出来上がったと感謝しています。



特殊消化設備の導入(炭酸ガス)



危険物の安全性を考慮し、将来の需要を視野に入れた空間

株式会社エクシング
常務取締役 運輸サービス 営業本部

堀 博 史 様

コミュニケーション力の高さも
松永さんの魅力

ほんとは北九州の危険物倉庫も松永さんをお願いしたかったのですが、遠方などの理由で断念せざるを得ませんでした。結局、九州の業者さんに「埼玉県の倉庫に準じて建てて欲しい」とお願いしたのですが、同じように作ったつもりでも違うのですね。荷物の出し入れのしやすさ、路面の舗装状態、外構…技術的な差というより、こちらの要望をどこまで理解してくれているのか、その違いだったと思います。

どんなことでも遠慮なく聞くことができ、本音で話し合える。私見ではありますが、コミュニケーション力の高さが、松永さんの魅力だと感じています。もちろん地元の企業として対応力が抜群に早いのも魅力なのは確かです。担当者さんがずっと変わらないので「地下ケーブルが…」と電話一本入れただけでずっとわかってもらえます。こちらが現場に行けない場合も多いので、迅速で確実な対応力は、地元企業ならではの良さだと思います。

当社としては埼玉の第2倉庫が完成して、今回、千葉の第二期が完成しました。さらに埼玉の第二期、千葉の第三期と続く予定です。業界全体の動向として、危険物倉庫の需要はどんどん増えることが予想されているので、松永さんが活躍する機会も多くなるのではないかと考えています。

創業55周年記念式典「報恩感謝の集い」を開催

社員と家族合わせて300人以上が参加。会社の歴史を振り返りながら、楽しい時間を過ごしました。

2018年4月21日、当社創業55周年の記念として、創業55周年記念式典「報恩感謝の集い」を開催いたしました。松永建設の歩みは「お客様やお取引先様はもちろん社員とその家族の支えがあったからこそ」であり、感謝の想いを伝えたいと社長自らが企画したイベントです。当日は、社員と家族合わせて300人以上が参加しました。

式典では、まず社長が挨拶に立ち、当社の歴史を振り返り「これまで社員と共に、必死に信頼を築いてきたこと。今後も強くて良い会社をつくり、社会に貢献し、ご家族の皆様の幸せに繋がる会社にする事」などを語り、皆に感謝を述べました。

続いて、勤続30年、勤続20年、勤続10年の社員を対象にした永年勤続表彰。さらにスペシャルゲストのアキラ100%の芸、メモリアル映像の

公開などが行われ、盛況のうちに式典は終了いたしました。



右上：永年勤続表彰される社員の方々 下：創業55周年記念式典「報恩感謝の集い」集合写真

「平成30年度松永建設・大樹会安全大会」を開催

元西武ライオンズ監督の東尾修氏から「プロの仕事」について学ぶなど、安全意識の大切さを再確認した実りある1日。



松永大祐社長 挨拶

松永建設では、毎年、社員と当社協力会社の方々を集め、安全に対する意識を高めるための「安全大会」を行っています。第36回目となる今回は、2018年6月14日、来賓として川又裕子（春日部労働基準監督署・副署長）、高橋清二（岩槻警察署交通課・課長）、小山淑夫（小山労務管理事務所・所長代理）をお招きし「市民会館いわつき」で開かれました。

大会では、大樹会会長の松永社長より、7月から始まる安全週間の意義や労災事故に対する危機意識など、建設に関わる者が心がけるべき「安全」についての話があり、また安全表彰では「優良協力会社の部」「優良作業所の部」「優良職長の部」の3部門の優秀者が表彰されました。

さらに休憩を挟んで行われた第二部では、元西武ライオンズ監督の東尾修氏による「勝つための心構え～プロならではの仕事との向き合い方～」

をテーマに講演が行われ、厳しいプロの世界ならではの熱い話に、会場が盛り上がりました。



▲元西武ライオンズ監督の東尾 修氏

◀平成30年度松永建設・大樹会安全大会の様子

ベトナムから新卒者6名を迎えました！

2018年、ベトナムから6名の新入社員（3月1名、6月4名、8月1名）が入社しました。松永建設の将来を担う大切な仲間です！

松永建設では、建設業界全体の構造的な問題や日本が抱える少子高齢社会のなかで、人材を海外からも求めています。さらに近い将来、ベトナムでの事業展開を視野に入れています。こうしたことを踏まえ、中核となる人材としてハノイ土木大学等より、志高く、向学心溢れる仲間を迎えました。

来年度もハノイ土木大学より5名の新卒者を迎える予定です。彼らが今後どのように活躍していくのか、当社の事業展開共々ご期待ください！



◀6月入社式の集合写真

松永建設グループのシンボルマークが新しくなりました。



感動創造建設会社

MITSUNAGA

新しいシンボルマークは、すでに定着した松永建設のワードマークを使いながら、松永建設のイニシャル「M」をベースに山の頂きをイメージしたフォルムを創出しました。新たなシンボルを加えることで松永建設がさらなる飛躍を目指し、次のステージへと向かう姿を表現しています。社員一丸となって頂を創るという意味を託し、その先を見据え前進していく新生「松永建設」の新しい顔として展開していきます。※このシンボルマークを通称「マツナガマウンテン」と名付けました。

社長の 男気コラム

建築・土木業界は、「働き方改革」からもっとも遠い場所にいる。その一番大きな理由は、相手にしているのが「自然」だからだ。雨が降れば工事は3日止まる。雪が降れば1週間は停滞するかもしれない。雨が降ろうが矢が降ろうが（降られちゃ困るが）、工期厳守なので現場は多忙を極める。

しかし、遠い場所にいるからといって、諦めてしまったら1歩も近づけない。松永建設をもっともいい会社に！才能とやる気がある人材が、女性も男性も（海外からも）集まってくる会社に！

「働き方改革」に本腰をいれはじめたのだけど、実はこれが大変なんだ。現場の働き方を変えるには、現場だけいじっても話にならない。

働きがいのある会社から 生き甲斐のある会社へ！

社内の業務システムをゼロから見直して、業務負荷を徹底的に減らそうと大奮闘中である。3次元CADシステムBIMを導入して、設計管理を効率化したのもその一環。組織も変えた。品質管理部門に工務グループを立ち上げて、現場のバックアップ体制を強化した。まだやることは山ほどあるが、社員1人1人が充実した人生を過ごせるようにするのが社長の仕事。

「因は上流、果は下流にあり」

**生産性向上を目指して
松永建設の「働き方改革」進行中！**

